

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000209		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホーム ラポールしらかば 2F		
所在地	京都市西京区榎原盆山15番地8		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000209-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、支援者、家族、それを取り巻く周りの人々が互いに「人」として認め合い、互いの存在価値を感じられる環境作りに力を入れている。単に介護するという視点ではなく、暮らしの中でその方を支援するという想いで日々ケアをしており、自己選択・自由に生活が営んでいただけるようご本人主体の考えを尊重し、実践につなげている。
法人理念「帰家穏坐」の意味するところを皆が肌で感じ、入居者と職員、それぞれの「家庭」を大事にしながら生活が送れる支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に「帰家隠坐」とその意味を掲げている。各職員その思いで日々支援している。またユニットにおいても職員の思いとして支援目標を掲げその精神を元に日々の業務に携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも入会し、地域の年中行事や独居の高齢者の見守りのためのケア会議に出席している。買い物も近くのスーパーに出かけ、時折入居者も個人的に買い物ができるよう配慮している。また児童施設等の行事にも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1～2回ではあるが、地域で開催されている認知症あんしんサポーター養成講座に講師として参加し、理解と同じ地域住民としての関係作りを推進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で会議を実施し、事業報告や地域の声を聞き、支援活動に活かしている。民生委員、他施設の事業所にも参加していただき、事業所の枠をこえた意見共有も実施している。出席出来ないご家族に会議録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月の区の福祉関係施設調整会議に参加し、行政の動向や自施設の待機者情報等を報告し、連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたらないよう日々注意し、BPSDの対応においてもご本人の性格、特徴を掴みながら自身よりサインを発していただくよう本人主導によるケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回の実践者研修の受講や日々職員間でも業務中、指摘し合える環境作りを心掛け、身体的な事は当然の事ながら言葉のかけ方も注意し合えるよう努力している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修や外部研修受講することで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明ではなく、随時、御家族様からの質問、要望に対応しながら進めている。また契約前であっても随時、見学・相談等に柔軟に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からの要望は、認知症の為、表現されにくいこともあるが、日々の関わりから細かいところまで気を配り、日々改善に向けて取り組んでいる。家族会等でアンケートを実施し、ご要望等お聞きした上で改善点など施設季刊誌に表記している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	正職、パート職員の壁はなく、互いに何でも言い合える関係作りと管理者もその意見を聞き、すぐに対応し反映できる体制ができている。職員連絡帳等による書き込みや会議での発案も細かく取り挙げ集約し、運営に反映する努力をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望、現場での必要性を重視し、日常的に外部研修参加ができるよう回覧や推薦によって常時配慮している。また研修に参加しやすいように勤務体制も出来る限り配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市老協地域密着型部会、ケア学会等の研修に積極的に参加して、横のつながりを親密に持ち、互いの事業所、行政機関の意見交換を常に行っている。他施設運営推進会議にも参加している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のサービス関係者やご家族からの情報を元にアセスメント表を作成し少しでも早く馴染みの関係作りが出来、双方が関わりやすい環境を整えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族を他人(施設職員)に委ねる不安や複雑な気持ちをく汲み取り、一緒に考えながら携わる事で信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び御家族の意向をよくお聞きした上で、当事業所に限らない様々な選択肢の提示とその希望の実現に向けた対応ができるよう常に努力している。また利用中であっても様々な選択肢を随時提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力、状態を把握し、「暮らし」の中での支援を常に考え、生活の中でのADL維持が出来るよう意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が訪ねて来られた時や電話・手紙などで、日頃の様子や変化など常に細かく報告し、ご本人が暮らしやすく、生活状態がよりよい方向性へ向かうよう一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた美容院やスーパーに行ったりご近所がいつでも訪ねて来られるように配慮したり、ご友人と外出したり等、ご家族と連携して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格によって対人関係の必要性も違うので表情や言葉などに注意しながら支援している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、もしくは逝去された後でもご家族様よりご意見をいただいたり、家族会等に参加していただき、交流・情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を伝えられない場合もご家族や周りの方々からの情報を活かし現在の言動から思いを汲み取る努力をしている。常に柔軟な姿勢でケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との生活上の関わりの中で馴染みの物や懐かしい事、好きな事や嫌いな事を把握できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日よっての体調や気分の変化に気づけるよう注意し、その方の有する力を細かく把握して、少しでも活かせるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	付箋等に現時点での課題や気づいた事を書き込み、それを元にケース検討やモニタリングの実施、ケアプランへ繋げて、随時ご家族に伝えながら要望等お聞きするようになっている。3か月に1回モニタリングを実施。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記載は基本的に色を分けて記入し、ご本人の言動・支援者の言動をそれぞれセンター方式による記入方法で印を区別している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が付き添えない場合には、病院等、職員が対応し、本人希望による突然の外出、外食等にも快く実施していただけるよう常に柔軟に支援している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自身の暮らしを実感していただけるよう配慮し、人的・社会的環境面においても本人本位で支援できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回往診及び訪看に来ていただき、24Hオンラインの対応をしていただいている。体調変化時は勿論、その他の機会であっても本人、家族・医師を交えた医療面での支援体制について話し合いの場を設けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週にホームDrの看護師が訪問看護に訪れる。それ以外でも急な体調変化や本人、家族の疑問や問題に対して連絡をとり、解決に向けての努力に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、定期的な訪問による状況確認やDr.Ns又ご家族と常に連絡を取りあい、治療の過程や状況などの情報を共有している。また退院に向けて混乱なくホームでの日常生活に戻れるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、家族、かかりつけ医、職員で面談している。また体調の変化がある度にその方向性を再確認し、重度化した場合もその都度話し合いをする機会を設けてご本人、ご家族の意思確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	家族と共に急変時の対応を個別に考え、全職員が対応できるようマニュアル作りをし、取り組み訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主的な災害訓練等を実施している。地域の広域防災訓練にも参加し、緊急時の避難経路の確認等も実施している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアする介護職員としての心構えも勿論だが「人対人」の関わりであることが大前提にあることを職員各自、常に意識している。当然の事だが、各自の家庭に訪問しているという意識で関わり訪室の際も了解を得てから入室する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決められる事は勿論の事、そうでない場合も一緒に考えたり、選択肢を提案するなど思いに添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらの都合でその日の過ごし方を決めず、提案等行い自分で選択できるもしくは自由に活動できる支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人意向を優先し実施している。決めかねる場合や難しい場合はご本人及びご家族の要望を聞きながら出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のチラシを見ていただいたり、その日食べたい物をお聞きするなどして献立を決定している。していただける方には、配膳下膳は勿論、調理や洗い物などの片付け等もして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律同じではなく、個人の摂取量等を把握してご本人に合わせた健康維持が図れるよう柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施できるよう声掛けをして努力している。外部歯科往診時に意見をいただき、ケアに活かせるよう心掛けている。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	言葉・表情を細かく観察し、ご自分で出来る部分は自分のペースでできるように何気なくサポートし、こちら主導の支援にならないよう努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分等工夫し、なるべく薬に頼らない努力をしている。また無理のない運動や散歩などで自然に排便出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めているが、本人の意向を常にお聞きし、いつでもご本人のタイミングで入浴できる体制をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにおいてもソファなど一人になれる場所を作り、自由にくつろげる空間をつくっている。また居室もそれぞれがくつろげるよう本人の意向をお聞きしながら部屋作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書など、随時個人ファイルに保管し、変更時は連絡ノート記入及び口頭確認にて連絡もれがないようにしている。また副作用の注意がある場合も注意深く様子観察を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でその方が得意な家事やカレンダー作りなどの役割作りや、歌番組など録画し、いつでも楽しめるよう支援している。また要望がある場合は勿論だが、定期的にドライブや外食など外出の機会を設けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や地域行事などの参加、買い物に行きたいと要望がある時、一緒に付き添うなどの支援をしている。またご家族と外出される場合はご家族様の要望に沿って最寄の駅まで送迎するなど柔軟に対応している。		

グループホームラポールしらかば(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、少額ながら自分でお金を所持していただき、買い物時 自分で支払いをしていただいたり、一緒に帳簿をつけるなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも、希望があれば居室で電話が出来るようにしている。また手紙やはがきも常時書いていただけるよう準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設であっても、生活する空間としてとらえていただけるよう、出来る限りの家庭用品を設置している。室温、明るさ等もこちらの目安ではなく、常に入居者の目線で考え不快に感じられないよう注意している。また四季折々の飾りつけ等で季節を感じていただけるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、個々にくつろげるスペースを作り、天気の良い時には、玄関先等にベンチなど置いてお茶や食事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されていた家具等を持ってきていただき、なるべく馴染みの物で暮らせるよう支援している。収納や整理に関しても本人、ご家族の意向をお聞きし、必要物品があれば、一緒に出掛けて購入出来るよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あまり過剰にならない程度に介護器具を設置し、自分の能力に応じた生活が送れるよう支援している。生活用品においては、複雑な物をあまり使用せず、あくまでご本人がわかりやすい物で配慮し理解が困難な場合はその都度対応している。		